

《派遣の祝福》

主はみなさんとともに。

●また司祭とともに。

全能の神、父と子と聖霊の祝福が

+皆さんの上にありますように。

●アーメン。

感謝の祭儀を終わります。

行きましょう、主の平和のうちに。

●神に感謝。

「私たちの日常がイエス・キリストのミサと結ばれることによって、私たちの日常の生活の場がイエス・キリストの活動の場として、イエス・キリストに明け渡されることとなります。イエス・キリストは私たちの生活の場の只中で、彼がかつてパレスチナの地で行われたことを新たに初めてくださるのです。

私たちの只中で彼のことが再び響き始めます。彼の力ある、みわざが再び開始されるのです。そして、あの十字架の死と復活がもたらした、新しいこの世の秩序が私たちの日常の場を実現していくのです。

イエスの弟子たちがこの世界をキリストの働き場と宣言し、そのことを示すために自らの生き方をもって証ししていったように、私たちもイエス・キリストに派遣されて自分の生活の場へと帰っていくのです。日々の苦役を繰り返すため、エジプトの隷属に逆戻りするためにはありません。イエス・キリストのいのちに結ばれて、イエス・キリストに

派遣された者たちとして、私たちのうちに生きるキリストのいのちを、今やイエス・キリストに遣わされることによって、私たちの新たな任務の地とされた私たちの生活の場にもたすために各々出立していくのです。

私たちがイエス・キリストを宣教するものではありません。イエス・キリストが私たちを生かしていることが、私たちの生き方を通して透けて見えることによって、私たちを通して、私たちの生活の場でイエス・キリストが働かれるのです。いかにイエス・キリストと結ばれているか、私たちの使命はただそのことだけに掛かっているのです。かつて、弟子たちを送り出されたように、私たちを遣わすと言われるイエス・キリストは、世の終わりまで絶えず私たちとともにいるとのことばをもって、私たちを祝福し、送り出してください。」

※「ミサの鑑賞—感謝の祭儀をささげるために—」 吉池好高 150～151頁